

令和2年度丹波の森夢会議・丹波地域未来フォーラム 記録

令和2年7月に発足した第10期丹波地域ビジョン委員会では、丹波地域ビジョン「みんなで丹波の森」に掲げる「自立」、「交流」、「元気」、「絆」、「安全安心」の5つの将来像をめざし、5つのグループが実践活動に取り組みました。

コロナ禍で思うように活動ができない中、ここまでの活動の報告と次年度に向けた活動予定などの報告を行いました。

さらに、第2部として丹波地域未来フォーラムを実施し、現在作成中の長期ビジョンにむけた将来構想試案を県庁ビジョン課から説明し、丹波地域の若者が共に未来を描いた丹波地域デザイン案についての説明、さらに参加者全員で丹波地域の30年後の未来を考えるグループディスカッションを行いました。

- 1 開催日時 令和3年3月14日（日） 13:30～16:30
- 2 場 所 丹波ゆめタウンポップアップホール
- 3 テーマ 「ちょっと先あったかい地域を目指して。今こそつながろう TANBA!!」
- 4 参加者 76名
- 5 内 容

(1) 開会あいさつ

岸孝明 第10期丹波地域ビジョン委員会委員長

- 第10期委員は、コロナ禍で集まりにくい状況の中、5つのグループそれぞれが、丹波地域の課題解決のため創意工夫を凝らしながら様々な取り組みを進めてきた。その様子を発表する。
- 第2部では、コロナ以後の時代を踏まえながら、30年後の丹波地域のあるべき姿について、知恵を絞って頂きたい。



(2) 第10期丹波地域ビジョン委員会実践活動グループ活動報告

① 生かそう！丹波の食

“MOTTAINAI” 食材の活用

【柿】 地域で放置され野生動物のえさとなってしまう可能性のある柿を収穫し、ジャムなどに加工。販売を目指して研究を続ける。

【栗】 次年度はマッシュマロンを使ったレシピを研究する。

【お茶】 「寒茶」のPR。



② WaKai

子育てグループ

子育て中のママがホッとできる居場所をつくる。

3/20(土)、明橋大二医師によるオンライン講演会を開催する。丹波篠山市と丹波市の2カ所で会場を借りて大画面での配信を予定。ママだけでなく、幅広い世代の方からの申し込みをいただいている。



a/e ゲーム会

「ゲームでつながりを 社会的孤立防止を考えて」

高齢者も、障がい者も、ひきこもりの人も、誰もが楽しめる居場所をつくるため、テレビゲームだけでなく、麻雀やカードゲームなどのアナログゲーム大会も開催。イベント開催だけでなく定期開催も行う。高齢者や体の不自由な人でも楽しめる e-スポーツも進める。



③ つなごう

丹波と移住者をつなぐ

移住者希望者へ丹波の情報を発信していくため、勉強会をおこなった。

- ・ 10/31 (土) たんば“移充”テラス 訪問
- ・ 12/13 (日) 丹波市立農の学校 訪問

丹波地域の移住の状況、就農支援などについてうかがった。



④ 花あかり

添加物の少ない「食」をめざして

- ・ 昔ながらの菓子や食事のレシピ集を作成。
(ブルーベリージャム、すいとん、べた焼き、ぜんざい)

子どもが簡単に安価で作れるお菓子の普及

- ・ ういろやべた焼き、すいとんなど安価で簡単に作れる食べ物を普及していく。



⑤ おかの草刈り応援隊

おかの刈り草プロジェクト

草刈りでできた大量の刈り草の有効利用を考える。

11/21 (土) 講演会

- ・ 神戸大学大学院農学研究科 清水夏樹先生
- ・ 神戸大学大学院農学研究科 鈴木武志先生

3/7 (日) 灰屋ウオーク

岡野地区に灰屋が多く現存することがわかり、地域の農業遺産を巡るイベントを開催。



【コメント】

横山宜致 丹波地域ビジョン委員会専門委員

コロナ禍においても工夫されて活動していた。来年が集大成ということで、上手く協力してくれる人の輪を広げながら活動して欲しい。

- ・ 生かそう！丹波の食グループは、丹波篠山市畑地区の「さる×はた合戦」とコラボして実施された。自分たちだけではなく、地域と一緒にしているところがよかった。料理を作る時に一緒に作った方が、参加者が増えるのではないかな。
- ・ WaKai グループは子育てしている人のグループ。悩みをもちながら持続しているのがえらい。実際子育てしている人が実際に活動



していることに意義がある。

- つなごうグループは委員の大半がIターンやUターンの方。自分たちの経験から自分たちの足を使って調査している。受け入れ側と移住者側の歩み寄りが必要なので、そういう視点をもってやってもらいたい。
- 花あかりグループは今年は食なんです。添加物ということで、分からないところであるが、作ってみたいと思わせる、誘惑させる部分を作してほしい。
- おかの草刈り応援隊グループは3名ということで、どうなるかと心配していたが、清水先生のご指導も受けてうまくやっている。景観ということからも灰屋は魅力的とされているが、今回は、灰屋の中からの視点ということで、刈り草を上手く利用するために灰屋に着目したというのは新たな視点。

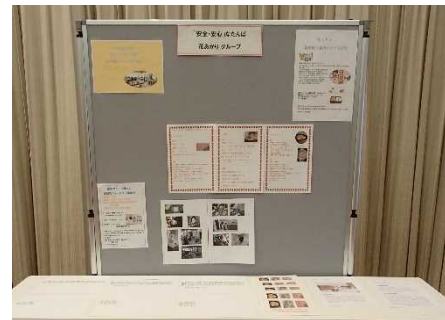
小橋昭彦 丹波地域ビジョン委員会専門委員



ビジョンの活動は、広がり方が活動のエネルギーとなつてがんばれる。WaKaiグループがしんどかったということだが、子育て中の人に関わっているということ自体が意義がある。この活動から、もっと子育て中の方々がつながっていけることを期待している。

丹波の食グループの「さる×はた合戦」や、おかの草刈り応援隊グループの神戸大学とのつながりなど、他の活動とつながっていくのは大きな価値。つなごうグループも新年度楽しみ。花あかりグループは一緒に作っていくことを、どう広げるかだと思ふ。新年度更なるつながりが生まれていくことを期待している。

各グループの展示発表の内容



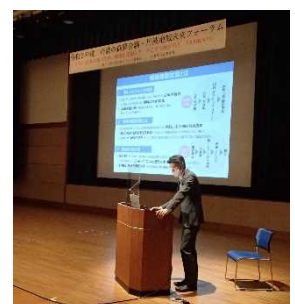
(3) 将来構想試案説明

企画県民部ビジョン局ビジョン課長 木南晴太

「2050年を展望し、新しい兵庫のビジョンを考える」

- 「21世紀兵庫長期ビジョン」の策定から20年が経過し、私たちを取り巻く環境は大きく変化しました。

これからの兵庫の進む道を県民の皆様と一緒に改めて考え、新しいビジョンを描いていきます。



(4) 丹波地域デザイン案発表

一般社団法人 BEET 細見勇人、本田紀元

丹波地域の若者たちと「未来のアイデア 1000」を作成。
地域の 2050 年の未来のアイデアをまとめたもの。
若者が持つ柔軟な発想だからこそ生み出せる多種多様な
アイデアが新しい刺激となっています。



(5) グループディスカッション

「未来のアイデア 1000」の中からテーマを選び、それぞれの丹波地域の 30 年後のあるべき姿を話し合いました。

以下、グループ A~K の発表内容。



- A: (テーマ選択なし)** 他地域に住んだことのある者の視点から見た丹波の値打ちということで話し合った。丹波の魅力は、スロライフの場所としてつくりあげることが大事。地域のコミュニケーション、人との交わりが魅力。食の魅力・自然のよさが魅力で、安心して遊べる公園を整備してほしい。山林の荒廃がひどい。山林を整備してよりよい地域に。丹波の良さをアピールして二地域居住の拠点となって欲しい。田舎の悪いところと言われている部分も、よそ者の視点から見るとよいところもある。
- B: (コミュニケーション)** 病気と犯罪がないコミュニケーションのとれる社会となり、考えが多様化しているがいろいろな意見が受け入れられる社会となる。多世代が交流できる施設が充実する。また、固定したところに永住しないフリーアドレスの社会になる。行政区分を越えたつながりの中で社会問題を解決したい。里山整備をしようとしても、行政区分のひっかかりがある。行政区分を越えたコミュニケーションがとれたらよい。否定のない多様な考え方が受け入れられるコミュニケーションができればよい。
- C: (空き家)** 空き家を、シェアハウスとしての活用や短期間滞在ができる施設に。VRで空き家見学。シェアして低収入の人も入りやすく。二地域拠点の人も入りやすい。もう一つは、空き家体験会を開催し、イベント型の活用（空き家の改修体験）。放置した空き家を改修して危険な建物をなくす。それを売り出していけばよい。
- D: (農業)** 実際に農業に携わるメンバーがいた。すばらしいテクノロジーができては畑や土に触れなくなることはどうか。ただ、農業人口はどんどん減っていく。重労働や体に負担がかかる労働を抑えてしっかりとした収入があることが理想。30年後も農業や農地に触れあえる地域であってほしい。
- E: (空き家)** I ターンは資金が難しく、田舎特有のしがらみもある。シェアハウスをすすめるにしても、価値観が違ふとけんかになることから、マッチングアプリを作って、同じ価値観を持つ人が集まるシェアハウスとして活用。コスト面でも安く住める。田舎のしがらみが嫌な人とお金のない都会の人が一緒に。
- F: (農業)** メンバーの全員が農業に携わる人だった。長い時間農業にかかる課題で盛り上がった。いかに農業に課題があるかが分かったが、全自動化すれば今の課題は全てクリアする。全自動化することで農地の価値があがる。業務全体を自治会で管理する。趣味としての農業も、一部自動化で担い手の育成にもなる。
- G: (空き家)** 空き家の価値が重要になる。自治会で窓を開けて空気を入れ換えて、庭の手入れをして、ということをしていると思うが、それがすごく負担となっていると思う。空き家が自動保全されるシステムができればいいと思う。移住した人が都会に帰ることも多く、そうした場合空き家が増える。空き家をシェアハウスとして活用して

はどうか。DIYが楽しめるリノベーションパッケージがある地域になればよい。

H: (県ビジョン課提案の将来構想試案より) 集中から分散へ。野生動物との共生。ICTで
らくらく農業。何からできるか、となった時に、丹波の食品で保存食。貸し農園。み
んなで自給自足ができるのが田舎のよいところ。家族ぐるみのコミュニケーションが
大事。丹波の自然がそのまま残っているとよい。これからは世界とつながっていく時
代。世界中どこにいてもつながっていく。世界の中から選んでもらえる丹波地域でな
いといけない。

I: (雇用) アイデア集の中にある「どんな仕事でもお金を生み出せる時代」をテーマに
話しあった。生涯現役という言葉もあるが、高齢化したら体が動かなくなったり、今
までどおりのクオリティを維持できない。でも年金だけでは暮らせない。外に働きに
出なくてもお金がもらえるようにならないか。家にいてゲームやYouTubeなどで稼げ
る人もある。30年後に年金があるかもわからないので、不安で仕方がない。体を使っ
て働かなくても、ある程度のお金がもらえるようになるとよい。

J・K: (空き家) 人口減を招かないために働く場所が必要。もうひとつは、空き家問題で
話しをした。空き家を減らすには多世代で暮らすことが必要。同居するには、親の話
が聴ける、子の話が聴けることが必要。弱い人をおいていかない地域をめざす。多様
性を受け入れるようになり、2世帯同居が進むと空き家は減る。家庭がオアシスにな
る関係になればよい。

(6) 閉会あいさつ

飯塚功一 丹波県民局長

- 第1部の夢会議では、ビジョン委員の活動は、県民局の施策と相通ずる部分も多々
あるが、行政とはひと味違う視点や発想、手法で
活動を展開されており、多くの気づきを与えても
らった。
- 第2部の未来フォーラムでは、30年後の2050年
を展望年次とした新たなビジョン策定に際し、丹
波地域でも新しい将来ビジョンを策定する。これ
まで様々な方法で地域の方々からご意見をうか
がってきた。これからも参画と協働で進め「丹波
新地域ビジョン」を策定していきたい。



以上